FUKUOKA PREFECTURAL UNIVERSITY

福岡県立大学　附属研究所

2017. 10

ヘルスプロモーション実践研究センター

事業報告書

2016（平成28）年度

福岡県立大学　附属研究所

目次

Ⅰ．2016 年度 ヘルスプロモーション実践研究センター 事業一覧 1

Ⅱ．地域支援事業部門 2

1. 身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス 2
2. 健康大使への継続教育 5
3. 県立大学　女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」 7
4. 性の健康に関する事業 8
5. エンド・オブ・ライフケア、多職種協働がんセミナー 10
6. 筑豊市民大学・ヘルシーエイジングゼミ PART 13 12
7. 健康教室（ヒーリング） 14
8. 「癒やしの空間」の管理運営 16
9. 食によるヒーリングパワー 17
10. 源流塾 19

Ⅲ．教育研修事業部門 20

1. 「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」 医療者向けセミナー .. 20
2. 保健師リカレント教育 23
3. ユニフィケーション・システムによるヘルスプロモーション推進事業 25
4. 福岡ヘルシー・エイジング研究会 27

Ⅰ．2016 年度 ヘルスプロモーション実践研究センター 事業一覧

地域支援事業部門

	事業名	実施責任者	実施回数
1	世にも珍しいマザークラス in たがわ	佐藤香代	6 回
2	世にも珍しいマザークラス in ふくおか	佐藤香代	5 回
3	健康大使への継続教育	佐藤香代	1 回
4	筑豊市民大学・ヘルシーエイジングゼミ	楪直美	11 回
5	健康教室（ヒーリング）	猪狩崇	7 回
6	「癒しの空間」の管理運営	猪狩崇	3 回
7	食によるヒーリングパワー	猪狩崇	1 回
8	県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」	佐藤香代	3 回
9	性の健康に関する事業（布ナプキン作成、マンスリービクス、月経なんでも相談、性教育）	古田祐子	19 回
10	エンド・オブ・ライフケア教育	尾形由起子	3 回
11	源流塾	尾形由起子	1 回

教育研修事業部門

	事業名	実施責任者	実施回数
1	看護職へのリカレント教育、身体感覚活性化〈世にも珍しい〉マザークラス医療者向けセミナー	佐藤香代	1 回
2	保健師リカレント教育	尾形由起子	3 回
3	ユニフィケーション・システムによるヘルスプロモーション推進事業	山下清香	11 回
4	福岡ヘルシー・エイジング研究会	渡邉智子	2 回

Ⅱ．地域支援事業部門

1. 身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス

①事業組織

事業代表者：佐藤　香代（看護学部教授）

事業分担者：鳥越　郁代（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 准教授）
石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
安河内静子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
吉田　静　（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
佐藤　繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）　1,007,000 円（田川 405,000 円、福岡 602,000 円）
項目：附属研究所費（健康教育の実施）

受講者受講料　田川　6,000 円　福岡 12,000 円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター

共催：フムフムネットワーク

④事業の目的

身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスとは、1996 年以降、看護学部の女性看護学・助産学教員とフムフムネットワークに所属する助産師が、福岡市において大切に育み実践してきたものである。2005 年度からは、地域の健康増進とその役割を担うキーパーソン（健康大使）育成のため、さらに助産や看護学生の実習教育と助産師・看護師・保健師などのリカレント教育を付加して、本大学でも実践している。

「身体感覚活性化」とは、視・聴・嗅・味覚及び皮膚感覚等を刺激することで妊婦自身が身体で感じ、気づく働きかけをいう。身体感覚は自分の内面に向かう時間や、他者との交流を通して確かな気づきとなり、それは自らの身体への信頼や子どもを受け入れることにつながっていく。このマザークラスは、妊婦の本来持っている産む力や子どもの生まれる力を引き出すというコンセプトで実施する、「教室型を排除した新しい形のマザークラス」であり、同窓会を含む 6 回コースで実施している。参加者の満足度は 100%であった。

⑤事業の内容

【田川プログラム】

1. 第12回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスin田川（セミナー編）
   開催日時：2014 年 10 月 17 日　10 時～13 時
   会　　場：福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター
   参加状況：妊婦 13 名（延べ 62 名）助産師（教員含む）6 名（延べ 28 名）、助産学生 6 名（延べ 36 名）、計 25 名（延べ 126 名）

内　　容：
第 1 回 6/17（金）：妊娠中から美しく！骨盤体操と美しい姿勢
第 2 回 6/24（金）：「妊娠中から役立つツボとお灸」～アナタは冷えていませんか？ツボとお灸でもっと健康に!!
第 3 回 7/１（金）：カラダに優しい、家庭でできるカンタン薬膳（お食事会）
第 4 回 7/８（金）：「重ね煮を作ろう！」～野菜のエネルギーを引き出す重ね煮レシピ（お食事会）
第 5 回 7 /15（金）：家族のからだの SOS を見逃さない!!からだのミカタ講座
第 6 回 7/22（金）：おしゃべり会　妊娠・育児のお悩み解決！

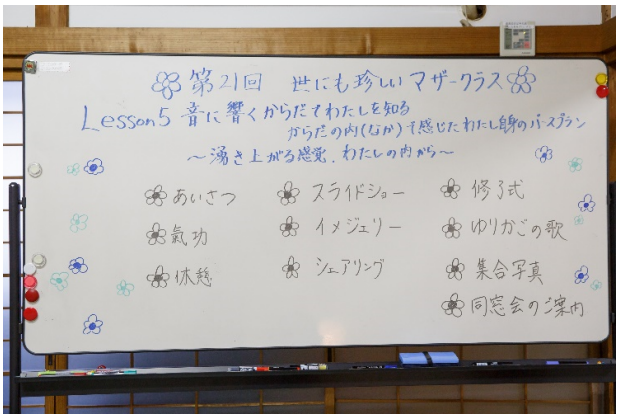
【福岡プログラム】

1. 第20回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスin福岡　同窓会(計1回)
開催日時：2016 年 11 月 21 日(月)　10 時～12 時
会　　場：電気ビル共創館
参加状況：参加者 10 名・児 7 名、助産師（教員含む）8 名、学生 13 名　計 38 名

2. 第21回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスin福岡（計5回）
開催時間：10 時～13 時
会　　場：福岡県助産師会館
内　　容：
Lesson1(10/7)：息を感じる　触って感じる【呼吸、出会いゲーム】
Lesson2(10/21)：食で感じるわたしのからだ【クイズ、食の話】
Lesson3(10/28)：からだの知恵で産み・育てる【お産体験】
Lesson4(11/4)：アロマで感じる私のからだにおいとふれるで快を感じる【アロママッサージ】
Lesson5(11/11)：音に響くからだでわたしを知る【癒しの音色・修了式】

参加状況：妊婦 13 名（延べ 51 名）児 8 名（延べ 25 名）、助産師（教員含む）10 名（延べ 43 名）学生 13 名（延べ 57 名）、計 44 名（延べ 176 名）

プログラムはスタッフの手書き



毎回の気功

シェアリングではついつい涙がこぼれます

2. 健康大使への継続教育

①事業組織

事業代表者：佐藤　香代（看護学部 臨床看護学系女性看護学 教授）
事業分担者：鳥越　郁代（看護学部 臨床看護学系女性看護学 准教授）
石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学 講師）
吉田　静　（看護学部 臨床看護学系女性看護学 助教）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学 助教）
佐藤　繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）　79,000 円
項目：附属研究所費（健康教育の実施）

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター
共催：フムフムネットワーク

④事業の目的

1996 年から開始した身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡、2005 年から開始した身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in たがわは、多くの卒業生を送り出している。参加者のクラスへの満足度は非常に高く、卒業生は現在地域でいきいきと子育てを行っている。これらの卒業生が自己完結で終わることなく、一人でも多くの人に学んだ内容や子育ての楽しさを伝えてもらいたいとの意図で、卒業生を「健康大使」として任命し、これからの役割の意識づけを行っている。

⑤事業の内容

開催日時：2016 年 8 月 8 日(月)　13:00～15:30
会　　場：電気ビル共創館
内　　容：
①健康大使の役割とは
②第 1 部　講演「子どもに伝える性 」
-あなたはわが子にいのちをどう伝えますか?-
大学院看護学研究科助産学領域教授　佐藤香代
③第 2 部　気功、大同窓会（みんなでおしゃべり会）
参加状況：母 14 名、児 8 名、助産師（教員を含む）7 名、助産学生 2 名　計 31 名

セミナーは 2 部構成であり、第 1 部は大学院助産学領域の佐藤香代教授による講演で、テーマは「子どもに伝える性 」-あなたはわが子にいのちをどう伝えますか?-であった。

第 2 部は気功で身体を緩めた後、マザークラスを卒業した仲間が地域（福岡・田川）や世代を超えて皆で一つの輪となり、互いの近況報告などを行った。また、今回の講演内容について熱い意見交換がなされた。マザークラスの体験は、その後

の出産、育児の経験の中でさらに意味づけされ、日々の暮らしの中で力強く息づいていた。その経験を智恵として蓄積し、家族や友人との交流、仕事など色々な場面で伝承しており、健康大使としての役割を担っていた。参加者の満足度は、100%であった。

3. 県立大学　女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」

①事業組織

事業代表者：佐藤　香代（看護学部 臨床看護学系女性看護学 教授）
事業分担者：古田　祐子（看護学部 臨床看護学系女性看護学 准教授）
鳥越　郁代（看護学部 臨床看護学系女性看護学 准教授）
石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学 講師）
吉田　静　（看護学部 臨床看護学系女性看護学 助教）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学 助教）
佐藤　繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）
項目：附属研究所費 県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」　145,000 円
参加者実費負担　１人あたり 2,000 円（新生児蘇生法講習会以外）
１人あたり 5,000 円(新生児蘇生法講習会 A コース)、3000 円（S コース）

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

大学における助産師（教員）の活用及び、助産学生、看護学生の教育を目的に、女性の健康相談（思春期相談、不妊相談、更年期相談など)、育児相談、母乳育児支援を行う。

⑤事業内容

不定期に大学にて原則として予約対応の形で助産師活動を行った。また、新生児蘇生法講習会（21 名、5 回、助産師・看護師）を行った。

母乳育児相談 4 件（電話相談含む、4 名×1 回)。参加者の満足度は、100%であった。

4. 性の健康に関する事業

①事業組織

事業代表者：古田　祐子（看護学部 准教授）
事業分担者：石村美由紀（看護学部 講師）
　　佐藤　繭子（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）
　項目：附属研究所費「性の健康に関する事業」145,000 円
　参加者実費負担：布ナプキンのワークショップのみ 500 円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

性に関する諸問題をとおして女性が自らの健康に関心を持ち、月経痛の軽減、産めるからだづくり、十代の望まない妊娠や性感染症を予防するなど、特に女性の性の健康を向上させることを目的とする。

⑤事業の内容

当該事業は、主に相談事業、セミナー事業、出前講義の 3 つの事業を柱としている。

【相談事業】

「月経なんでも相談」では、月経不順、月経随伴症状、おりものの異常、婦人科疾患、乳がんなど、健康問題に関連した個別相談が 25 件あった。

【セミナー事業】

セミナーは「布ナプキンのワークショップ」「マンスリービクス」「不妊に悩む女性とのおしゃべり会」の3つのセミナーを開催した。「布ナプキンのワークショップ」は平成28年7月21日に開催した。場所は福岡県立大学附属ヘルスプロモーション実践研究センターの中セミナー室である。ポスターにて広報を行い、参加希望はメールで受付けた。学生、助産師等17名が参加し、にぎやかなワークショップとなった。また、平成29年２月21日に福岡県助産師会との共催で「布ナプキン作成講座」を開催した。日本家屋の中で、９人の女性が参加した。初めて使うロックミシンにもすぐに慣れ、自作の布ナプキンに満足した発言が聞かれた。参加満足度は全員が満足と回答していた。

↑写真：助産師会館での様子

「マンスリービクス」は、例年複数回開催していたが、実習室使用日の確保が困難な状況になったため、平成26年度より年１回とした。平成28年4月18日に本学5302実習室で開催し、8名が参加した。

平成26年度に作成したパンフレット「しっとお？月経」を無償配布した。

↑月経痛を軽減する体操時の様子

「不妊に悩む女性とのおしゃべり会」はメインテーマを“不妊のおしゃべり会　子どもがいても、いなくても、大切なわたし☆大切なあなた”とし、平成29年３月10日に福岡県立大学実習室で開催した。参加者は７名であり、不妊の看護を専門に行っている看護師の他、不妊治療を受けた経験のある女性や不妊に関心を持つ看護学生が参加した。おしゃべり会では、ミニ講座に続き自己紹介を行い、その後フットバスによる足浴とハンドマッサージを実施した。参加者は心身ともに癒されたようすで、治療のステップアップに関することや夫婦関係の悩みなど、多くの語らいができた。満足度の高い会であった。右写真は配布した自作パンフレットの表紙である。

【出前講義】

田川市郡内の中学校から性教育を依頼され、教員３人と協力助産師１名で実施した。また、田川市から家庭性教育に関する講演、福岡市内のタクシー事業者から講演依頼があり、講師を派遣した。受講者総数は310人であった。

5. エンド・オブ・ライフケア、多職種協働がんセミナー

①事業組織

事業代表者：尾形由起子（看護学部　教授）

事業分担者：楪　直美　（看護学部　准教授）

山下清香　（看護学部　准教授）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）

項目：附属研究所費　ヘルスプロモーション実践研究センター　120,000 円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

在院日数が短縮するなか、在宅医療を推進させるために、地域住民自身が終末期まで在宅療養を迎えるすべがあることを伝える必要がある。地域住民に対し在宅療養の具体的な方法を伝え、在宅医療に対する意識を向上させることを目的としている。平成 25 年度のヘルスプロモーション実践研究センターの公開講座もそのひとつとしており、がんの知識や療養方法などを中心に教育を行ってきた。その参加者の要望のなかに、在宅療養の際の具体的なケアの方法を身につけたいとあり、平成 26 年度は、在宅医療を推進させている看護職に対し、療養方法支援に対する力量形成を行った。さらに、平成 28 年度も「連携」をキーワードに、地域住民との連携、多職種との連携、看護職同士の連携を目的に、在宅医療・介護がよりよいものになるように研修を行った。

⑤事業の内容

1）平成 28 年 11 月 29 日（火）13 時～16 時
田川地区（田川市青少年ホーム）

2）平成 29 年 3 月 14 日（火）13 時～16 時
田川地区（田川市伊加利校区）

各研修会参加者数・満足度

	参加者数	満足度
11 月 29 日	255 名	98.0%
3 月 14 日	36 名	67.0%

3）多職種カンファレンス

日時：平成 29 年 3 月 3 日

場所：田川市役所

内容：地域住民が「住民自らが望む最期の療養場所を選択する」際、配偶者の介護をセルフマネジメントし在宅看取りをするプロセスについて議論した。そこのプロセスを在宅療養に関わる多職種（在宅医師、訪問看護師、病棟看護師、

介護支援専門員、ソーシャルワーカー、保健師）に説明し、内容の妥当性を得ながら在宅看取りのための必要な因子について話し合った。
参加者全員から、このようなカンファレンスを続けたいと意見が出た。
次年度に向けて、多職種と打ち合わせ会議を実施。
各職種より 7 分間で、プレゼン用スライドを用い説明。各職種の在宅での「役割機能」・「連携」をキーワードに内容を決めた。その後、グループディスカッションを実施、各役割について確認する場を作った。

6. 筑豊市民大学・ヘルシーエイジングゼミ PART 13

①事業組織

事業代表者：楢　直美（看護学部　准教授）

事業分担者：渡邊智子（看護学部　准教授）

江上史子（看護学部　助教）

廣瀬理絵（看護学部　助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）

項目：附属研究所費　ヘルスプロモーション実践研究センター　100,000 円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

この看護ゼミは、地域の住民と大学教員とで連携･共同して行う、筑豊市民大学の一環であり、『ヘルシーエイジングを求めて』と題して 13 年間継続している。このゼミに参加する地域の方は、それぞれが健康課題をもつ 50 歳代から 70 歳代までの中高年の方であり、自らの健康づくりに興味・関心が高いのが特徴的である。しかしながら実際の生活スタイルをなかなか変容させるのは容易ではなく、やりたい気持ちが実行に結びつくことを難しいとも感じている。そこで、健康づくりにおいて一人でできないことも、仲間をつくり楽しみながら実践していくことで、健康生活のスタイルを身につけていくことができ、高齢になっても生き生きと健やかに日々を過ごせるのではないかと考えた。さらには、看護の専門職者として教員がサポートをすることで、生活に取り入れやすく楽しい健康づくりが目指せ、この点において地域の方と大学教員が連携･共同していく意義はとても大きいと感じる。

そのためにはまず、ゼミ生が自らテーマを決定し計画を立てていくことで、長年の生活スタイルを変えるためのきっかけやモチベーションの向上を図る。その上で、楽しみながら感動や感謝を体感しつつ共に実践していくことで、日常生活でも取り入れていけることを目的として今年度も行った。

⑤事業の内容

参加者数:278 名

活動場所：ヘルスプロモーション実践室、看護学部 4 号館 3 階健康学習室、5 号館 3 階実習室

活動日と活動内容

月　日	時　間	テーマ	内　容
5 月 28 日	15:20～16:30	年間スケジュールと目標設定	各自の紹介と、今年度の健康の目標について発表。
6 月 18 日	13:30～15:30	食と健康	フードモデルを活用して各自の食事習慣について振り返り、考えた。
7 月 16 日	13:30～16:00	大切な命を守るには～皆で学ぼう心肺蘇生法～	CPR モデルと AED を用いて、一次救命救急法を楽しく学んだ。

8 月 20 日	13:30～15:30	漢方	東洋医学としての身体の見方や、食べ物による健康法について瀧井漢方医よりわかりやすく説明があった。
9 月 10 日	校外学習	ウォーキングとランチ	里山歩きをして気持ちの良い汗をかいた後にわびすけ新寮で自然食を食し、心身共にリフレッシュをした。
9 月 17 日	13:30～15:30	心も体も健康になる美しくなるヨガ	ヨガ体験を通して、自分の身体と向き合いリラクゼーションと身体のしなやかさを追求する。
10月29日	13:30～15:30	驚きと感動のマジック	身近にある物で、簡単に誰でもできるマジックを教わった。
12 月 3 日	13:30～15:30	気功体験	気功を通して、身体のことを知り、生活に取り入れられる気功を学んだ。
12月17日	13:30～15:30	認知症高齢者と家族の体験世界から支え方を考える	認知症についての正しい知識を持ち、認知症の予防や、認知症高齢者のかかわりについて学んだ。
1 月 21 日	13:30～15:30	笑いヨガ体験	笑うという情動を通して、楽しい、嬉しいといった情意を引き出す。免疫力の向上にもつながる。
2 月 18 日	13:30～15:30	年間のまとめ	1 年間のゼミを振り返り、よかったことや課題、来年に向けての目標や要望について語り合った。

〈ヘルシーエイジングゼミの感想〉

長年の健康生活のスタイルを変えていくことは、とても難しいと感じていた。1 年間で変わるものではないが、まずは参加して仲間を作ることの大切さを学んだ。仲間と一緒に楽しみながら、先生方のアドバイスを参考に、生活に取り入れやすい内容から少しずつ実践していけばいいことがわかった。その意識が重要であり、無理をせず、楽しみながら健康生活を考えていけばいいと思う。今までと違う仲間との出会い、笑ったり、情報交換したり、また新たな人間関係にとても感謝している。できれば長くゼミを続けていきたいと思う。

7. 健康教室（ヒーリング）

①事業組織

事業代表者：猪狩崇（看護学部　助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）

項目：附属研究所費　ヘルスプロモーション実践研究センター　138,000 円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター

田川地区高齢者連絡会　「たちばな通りカフェ」

④事業の目的

ヘルスプロモーションとしてのヒーリング（アロママッサージを中心）のケア提供と、講習会による民間ヒーリングボランティアの養成

⑤事業の内容

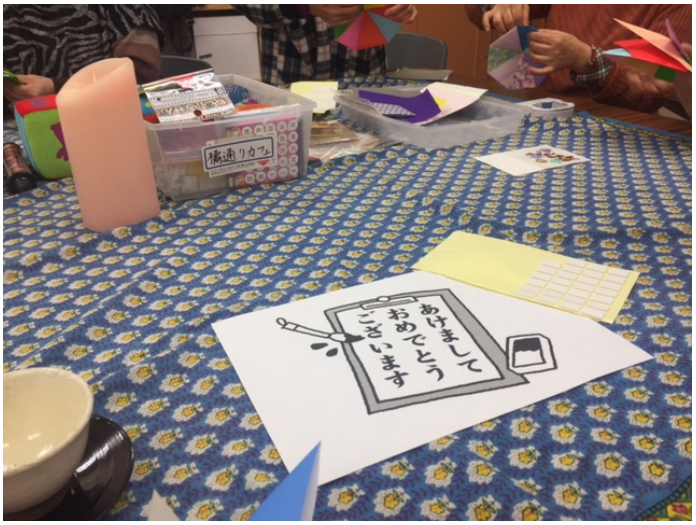
平成 28 年 9 月 15 日、健康教室（ヒーリング）があらたにオープンした。

伊田商店街のあらたなカルチャー発信センターになりつつある「リトロボココイタ」で、田川地区高齢者連絡会が同年４月から開始した健康カフェ「たちばな通りカフェ」（毎月 15 日。15 日が土日祝日の場合は前後の日開催）と、福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センターとが共同開催し、田川市地域包括支援センターが後援する形で運営していくことがこの日の会議で決まった。

開催日：毎月 15 日。15 日が日曜祝祭日の場合は前後の日。

H28 度中のヒーリング教室の様子

タッチケアのほか、各種作業療法、レクリエーション療法ともコラボ中（参加者が他の作業療法をしている間に、健康相談とタッチケアをして回るなど、相乗効果もねらっている）。



平成 28 年度は主に専任教員の出張による開催（11 月にヘルスプロモーション実践研究センターでの開催あり）であったが、次年度は本学学生との交流やヘルプロセンターでの開催機会を増やしたり、本学オリジナルのヒーリングカリキュラムの提供や修了書を発行できる資格化への取り組みを企画している。

8. 「癒やしの空間」の管理運営

①事業組織

事業代表者：猪狩崇（看護学部　助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）

項目：附属研究所費　ヘルスプロモーション実践研究センター　90,000 円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

主に在宅療養中の対象者に対し、ヒーリングを用いた療養支援を展開する。

⑤事業内容

H28 年度は 1 名の在宅療養患者に対し、専任教員と健康教室ヒーリングにて講習中の市民ボランティア 1 名にて支援に入り、ヒーリング（タッチケア中心）を 9 月より実施。週 1 回水曜日 14 時からのプログラムで、以後 3 回実施、対象者からは症状軽減の声が聞かれたが、12 月に入り対象者の仕事の事情により中断した。

9. 食によるヒーリングパワー

①事業組織

事業代表者：猪狩崇（看護学部　助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）

項目：附属研究所費　ヘルスプロモーション実践研究センター　180,000 円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター

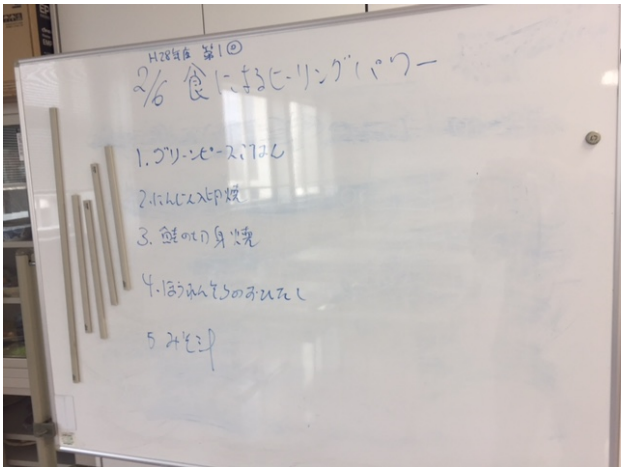
④事業の目的

在宅療養者やその家族、疾病予防に関心のある参加者に対し、食による回復過程支援の方法を講習してもらい、セルフケア能力を高める。

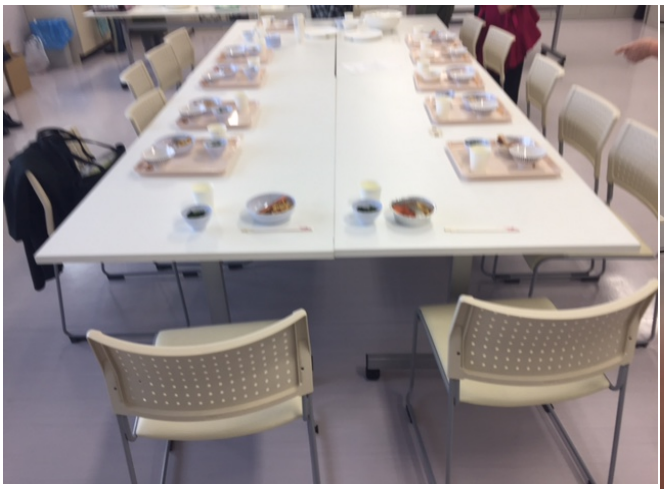
⑤事業の内容

テーマ：世界的にも健康長寿食として評価されている「和食」。

「ロジャー・ウイリアムズの生命の鎖」理論による和食の栄養バランスについて学び、基本的な和定食を調理実習する。



自主的に役割分担を決めて調理開始



試食では健康に関する取り組みについて盛んに意見交換がなされた。療養経験のある参加者からは、次なる企画の提案もあった。次年度はそれらを取り入れつつ、調理教室の開催数の増加、在宅療養食オリジナルレシピ集の研究編纂作業など「実効ある在宅食養生アドバイス」を展開していく予定。

10. 源流塾

①事業組織

事業代表者：猪狩崇　　（看護学部　助教）
事業分担者：尾形由紀子　（看護学部　教授）
　　杉野浩幸　　（看護学部　准教授）
　　中井裕子　　（看護学部　講師）
　　佐藤繭子　　（看護学部　助教）
　　楢橋明子　　（看護学部　助教）
　　杉本みぎわ　（看護学部　助手）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）
　項目：附属研究所費　ヘルスプロモーション実践研究センター　管理運営費

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

　本学教職員や地域の医療・介護職者らを対象に、教養とリフレッシュを目的とした講演プログラムを提供する。

⑤事業の内容

テーマ　『五感刺激を伴った口腔リハビリから"命（生命力）"について考える』
講師　久保哲郎先生（久保歯科医院　院長/　北九州医療・介護塾　塾長）
日時・場所　平成 29 年 2 月 28 日（火）　附属研究所中セミナー室
内容：在宅歯科医療における、五感を刺激する口腔機能リハビリテーション

　五感全部を刺激していくリハビリテーションプログラムによる慢性疾患、難治性疾患患者の ADL 改善事例に参加者一同驚いていた。
参加者：教員 5 名、医療・介護職者 3 名の計 8 名（運営部会委員 5 名を除く）
アンケート結果：内容がとてもよかった、これからの実践や教育に生かしたいという意見が目立った。

① Ⅲ．教育研修事業部門

1. 「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」 医療者向けセミナー

①事業組織

事業代表者：佐藤　香代（看護学部 教授）

事業分担者：鳥越　郁代（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 准教授）
石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
吉田　静　（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
佐藤　繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）

項目：附属研究所費　「看護職へのリカレント教育」　506,000 円

参加者実費負担　　１人あたり 8,000 円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター

共催：フムフムネットワーク

④事業の目的

身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスとは、1996 年から本学の女性看護学・助産学の教員とフムフムネットワークに所属する助産師が福岡市で大切に育み実践してきたもので、2005 年からは本大学でも実践している。このマザークラスは単なる参加型のクラスではなく、妊婦が自らの力に目覚めその力を信頼し引き出すことを主眼としており、これを全国に普及させることを目的に、2005 年より医療者向けセミナーを行っている。毎年全国各地から医療者の参加を得ている。

⑤事業の内容

日　時：2016 年 10 月 9 日（日）10 時～16 時 30 分

テーマ：「身体感覚活性化マザークラス」の哲学と実践

内　容：

1）講演「マザークラスのわざを極める：マザークラスに参加した妊婦は、なぜ皆変容していくのか？」福岡県立大学大学院助産学領域　教授　佐藤　香代

2）食体験　助教　佐藤　繭子

3）スライドショーとマザークラス体験：「世にも珍しいマザークラス」を体験しよう

・気功　教授　佐藤　香代
・イメジェリー（スライドショー）講師　石村　美由紀
・シェアリング（ロールプレイ）
・ドゥーラ体験（ロールプレイ）　助教　吉田　静
・マザークラス卒業生の声　第 20 期福岡マザークラス卒業生　横田奈央子
・生演奏　ピアニスト　今井　てつ

対　象：助産師　保健師　看護師　医師　学生　その他
場　所：電気ビル
参加状況：一般参加者 54 名（助産師・保健師・看護師 54 名）、スタッフ 8 名（教員 5、助産師 1、マザークラス卒業生の母 1、カメラマン 1）　計 62 名

佐藤香代教授の講演

ドゥーラ体験（ロールプレイ）

マザークラス卒業生の横田奈央子さん
～体験を語る～

終了後アンケートでは、「妊娠、出産することは辛いことばかりでなく楽しいことなんだという思いに変わった。」、「アドバイスなどしなくても、話を共感して側によりそっていくことが大事だと思った。」、「参加してよかった。自分の身体を全部の五感を使って感じることができて、自分の私生活を振り返ることができた。」、

「妊産婦と赤ちゃんの力を最大限に引き出せる助産師になりたい。マザークラスは指導というイメージが強かったが、新しいマザークラスを感じることができた。」、「普段自分が働いている病院では体験できないことばかりで、妊婦さんたちにぜひ体験してもらいたい。」など、好評であった。

参加者はこのセミナーの「体験」をとおし、医療者として、人間としての自分自身のあり方に気づき、妊産婦への想い、マザークラスへの想いを再確認していた。参加者の満足度は、100％であった。

2. 保健師リカレント教育

①事業組織

事業代表者：尾形由起子（看護学部　教授）

事業分担者：山下　清香（看護学部　准教授）

：小野　順子（看護学部　講師）

：手島　聖子（看護学部　助教）

：楢橋　明子（看護学部　助教）

：中村美穂子（看護学部　助手）

②事業資金

なし

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

変動する社会の中で、地域住民のニーズの多様化・高度化に伴い、保健師の活動は大きく変容しつつある。地域保健法、介護保険法等の施行、見直し、改正の変遷の中で、行政における保健師の配属先は、保健分野に加えて障害福祉、介護保険、児童福祉、男女共同参画、環境、教育、国民健康保険等の各分野を中心に職域は急速に拡大している。そのような状況下において保健師は業務分担化がすすみ、保健師の専門性を確認し、地域での公衆衛生看護活動が行いにくい状況にある。

地域保健で働く保健師が社会の要請に応えてその専門性を発揮し、責任を果していくためには、一人ひとりの保健師がそれら整理された管理機能の概念を意識化し、実践を見直す場が必要である。その必要性に伴って、管理職にありベテラン保健師と 10 年以上勤務経験をもつ保健師の専門性について確認し、相互にエンパワーできる場をつくることを目的とした。

⑤事業の内容（3 事業、3 回、参加者：42 名）

【ベテラン保健師の会】

日時：平成 28 年 7 月 16 日（土）　参加者：11 名（保健師 6 名、教員 5 名）

管理職にある保健師が持つ事業の実施内容と課題の紹介

行橋市，築上町，田川市，直方市，川崎町，大野城市の母子事業及び高齢者事業の紹介と新任期および中堅期の保健師に対する研修会のあり方について、ディスカッションを行った。

【卒業生リカレント教育】

事業の目的：法律や政策の変化が激しい中で、保健師として就職した卒業生は、行政や産業などの分野で新人保健師として業務に慣れるだけで精一杯の状況である。日ごろの保健師業務について振り返ることができないまま業務をこなしている状況が続けば、保健師として働き続けることへの意欲や主体的に業務に取り組む姿勢をもつことが難しいと思われる。そこで、保健師として日ごろ感じている思いや困っていることなどお互いが保健師として働いてきた経験を共有することで、日ごろの業務を見つめなおし、知識を整理するきっかけづくりとなるような場を開催する。

日時：平成 28 年 9 月 10 日（土）10:00～11:30　参加者：11 名（卒業生 5 名、教員 6 名）
内容：今回は、保健師としてスキルアップできるように事例検討を取り入れた。事例検討は、参加する卒業生から実際に対応している母子の事例を依頼し、事前に発表内容の打ち合わせ等を実施した。
　参加者のアンケート結果から、自分自身の課題としては、「アセスメント技術」や「知識不足」があり、大学に研修で希望する内容としては、「乳幼児健康診査の技術」や「困難な事例の検討」などが挙げられた。

【新任期保健師スキルアップ研修会】
事業の目的
　新任期は、個別支援や地区診断に基づく地区管理等の能力を醸成し、保健師としての基本的支援技術や実践能力を獲得する時期とされている。そこで、卒業生及び筑豊地域の新任期保健師が母子の対人援助技術を学ぶ場としてスキルアップ研修会を開催する。この研修会は、母子保健分野における乳幼児健康診査を通して対人支援技術の向上を目指すものである。
テーマ:支援が必要な母子を見逃さないために　母子保健活動を振りかえる～乳幼児健康診査を中心に～
日時：平成 29 年 2 月 18 日（土）9:30～11:30　参加者 28 名（保健師 12 名、卒業生 10 名、教員 6 名）
内容
１）事前準備
　①参加予定者に事前アンケートを送付した。
　②内容は、仕事をしている中での困りごとについて、アンケート用紙に記入したものをメールまたは FAX で返信を依頼した。
　③参加予定者の事前アンケートの集約内容をもとに、講師と打ち合わせを実施し、研修プログラムについて検討した。
２）グループワーク（当日）
　研修会当日は、グループに分かれて、ディスカッションを実施した。
３）ディスカッション内容発表
　グループごとにディスカッション内容を発表し、内容を全員で共有した。
４）講義
　①テーマ　「母親の困りごとを解決するためにどのように支援するか」
　②講師　　直方市教育委員会こども育成課母子保健係　香月　眞美保健師
５）質疑応答
　グループディスカッションの内容と講義により、参加者が自身の困りごとや問題に関する自分自身の課題を認識したり、学習意欲を高め、自身の課題に対して何をどのように学ぶとよいのかを考えたりする機会となった。また、グループディスカッションでは、新任期の保健師の困りごとに対して、先輩、ベテラン保健師がアドバイスできたことは、新任期の保健師の不安の軽減につながり、仕事に対して前向きに取り組むための機会となった。
　来年度は、新任期の保健師が、保健師としてやりがいを感じながら、仕事が継続できることを目指すとともに、発達障害児の早期発見や発達支援の技術について具体的に学ぶための研修会を実施予定である。

3. ユニフィケーション・システムによるヘルスプロモーション推進事業

①事業組織

事業代表者：山下　清香（看護学部　准教授）
事業分担者：尾形由起子（看護学部　教授）
小野　順子（看護学部　講師）
手島　聖子（看護学部　助教）
楢橋　明子（看護学部　助教）
中村美穂子（看護学部　助手）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）
項目：附属研究所費　46,000 円

③主催団体・共催団体

共催：福岡県立大学　附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

児童虐待防止、子育て支援、生活習慣病予防等は、住民一人ひとりの意識や行動の変容と健康づくりを推進する地域づくりが必要である。そのためには個人や単一の組織・機関の努力に止まらず、地域ぐるみで取り組むヘルスプロモーションが鍵となる。本事業で、学生と住民、関係職種・関係機関が協働で地域保健活動を実践し、ヘルスプロモーションを推進することを目的とする。また、ヘルスプロモーション実践による効果的な教育方法について検討する。

⑤事業の内容

・児童虐待に関する学習会

日　時：28年6月9日（木）、7月14日（木）、7月28日（木）、10月6日（木）、10月27日（木）11月10日（木）、11月17日（木）、12月15日（木）
出席者：看護学部1,2年生7～31名、教員2～5名
活動内容：児童虐待についての理解を深めるために、オレンジリボン運動、児童虐待について学習し、参加者で知識を共有した。

児童虐待とは何か、虐待の要因・背景、育児の大変さ、虐待を受けた子どもへの影響、虐待対策に関わる関係機関の活動・保健師に関する資料を持ち寄り、発表し、意見交換を行った。

また、DVD教材「生まれる」の視聴により、育児に対する理解を深めた。

・児童虐待防止啓発活動（オレンジリボン運動）

日　時：平成28年11月12日（土）　9：00～15：50
従事者：学生ボランティア（2年生18名　1年生20名　計38名）、教員5名
場　所：福岡県立大学

活動内容：地域の住民や将来親となる世代の大学生等に児童虐待について理解してもらうために、福岡県立大学秋興祭で、ポスターを掲示してチラシを配り、児童虐待防止の啓発活動を行った。

児童虐待に関する学習内容をもとに、グループに分かれて児童虐待についてのポスター、チラシを作成した。ポスターはクイズ形式にし、育児の大変さ、児童虐待の実態、要因や背景、児童虐待のサイン、支援や気づいたときの対応などについて作成した。秋興祭に参加した大学生、高校生、子どもや保護者、高齢者など幅広い世代の人に声をかけ、クイズを一緒に解きながら、ポスターの説明を行った。チラシは約500名に配布し、参加者と一緒にビッグオレンジリボンを作成するなど、参加型の啓発活動を行った。

・地域で実践に携わる講師による学習会

日　時：平成28年7月7日（木）
テーマ：社会福祉協議会の障がい児夏季休暇サポート事業による児童虐待防止
講　師：福智町社会福祉協議会　地域福祉課長　中村順吾氏
日　時：平成28年7月22日（金）
テーマ：市町村保健師の児童虐待防止の活動
講　師：田川市子育て支援課　保健師　長野美紀氏
日　時：平成29年1月18日（水）
テーマ：田川児童相談所担当者インタビュー
場　所：田川児童相談所
出席者：看護学部1,2年生4～13名、教員2～5名
活動内容：地元地域における児童虐待防止の取り組みを理解するために、児童虐待防止の現場の保健師等による学習会を行った。

福智町社会福祉協議会と田川市子育て支援課から講師を招き、実際の活動についての講義をしていただいた。田川児童相談所は、学生が事前に質問をお伝えして訪問し、担当職員から児童虐待への対応について話をしていただいた。

4. 福岡ヘルシー・エイジング研究会

①事業組織

事業代表者：渡邊智子（看護学部　准教授）

事業分担者：江上史子（看護学部）

廣瀬理絵（看護学部）

②事業資金

福岡県立大学予算（2016 年度）

項目：附属研究所費　212,000 円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業目的

人が健康に老いていくための健康生活を支援するために、ケアの質の向上を目指す。筑豊地域にとどまらず、福岡県全域まで広げ、参加者間の交流による互いの力を活用し、向上できるような場を作ることを目的に活動している。

⑤事業の内容

参加者数：42 名（一般 9 名、看護師 33 名）

第 1 回：

事例検討会、年間計画確認

平成28年9月16日(金)18:30～19:30

出席者:看護師　13名　一般　3名

第 2 回：

The談会　メインテーマ

「初期認知症の人と家族が安心・安全に地域で生活を送るためには

－支えあう立場からの当事者の生の声に耳を傾けようー」

平成29年3月11日（土）13：00～16：30

会場：田川市民会館　講堂

話題提供：

中島 七海 氏「初期認知症の人と家族を支える立場から」

（医療法人 笠松会 天神オアシスクラブ 施設長）

当事者のご家族「療養生活を送る当事者と家族の体験」

（家族の立場から）

The 談会 車座ファシリテーター

福岡県立大学 看護学部 老年看護学領域 准教授 渡邉智子

対象：

高齢者ケアに携わる方や高齢者ケアに関心のある方、学生

出席者：看護師　20名　一般　6名

初期認知症を生きる方とご家族がどのような体験をして、地域で生活を送ってい

るのか、そして、初期認知症を生きる方が病気になって、病院に入院してどのような療養生活を送っているのか、家族の目線での語りから、求めることや必要なことを考え、医療者や地域の方々がどのように支えていったらよいか、これからできることを参加者の皆さんと輪になって共に考えた。

そして、初期認知症を生きる方とご家族の体験から、早い段階で支えること／支えられることの意味について、皆さんの心に残ることを願って、皆さんと輪になって対話を行った。

福岡県立大学　ヘルスプロモーション実践研究センター運営部会　部会員

尾形由起子（ヘルスプロモーション実践研究センター長　編集委員長　教授）
杉野　浩幸（編集委員　看護学部　准教授）
中井　裕子（看護学部　講師）
猪狩　　崇（看護学部　助教）
佐藤　繭子（看護学部　助教）
楢橋　明子（看護学部　助教）
杉本みぎわ（看護学部　助手）

福岡県立大学　附属研究所
ヘルスプロモーション実践研究センター事業報告書　2016 年（平成 28）年度

2017 年 8 月 31 日　発行

編集・発行：福岡県立大学　附属研究所　ヘルスプロモーション実践研究センター
〒825-8585　福岡県田川市伊田 4395
Tel:0947-42-2118　Fax:0947-42-6171
http://www.fukuoka-pu.ac.jp/research/